

横須賀市長
吉田雄人様

2010年11月22日

観音崎青少年の村の存続を求める会
代表 鈴木宏治

「観音崎青少年の村」の存続に関する要望書

県立観音崎公園内にある野外活動・宿泊施設「観音崎青少年の村」が、存続の危機に立たされています。この施設は、1982年にオープンしてから28年間、神奈川県の間轄により運営してきました。神奈川県は2009年6月に施設運営の見直しが行われ、2011年3月に管理から手を引く方向を示していると聞いています。県は横須賀市への移譲や民間事業者への売却も視野に入れ、市に打診していると聞いています。

県の報告書によると、「利用者の4割以上が三浦半島の住民であるため、神奈川県が運営する意義が薄い」と結論づけられています。年間約1万4千人以上の利用者がある同施設が、市民の声を無視して、財政難だけを理由に廃止されようとしていることを、私たちは黙視するわけにはいきません。

「観音崎青少年の村」は横須賀市内で海と山に囲まれた唯一の野外活動・宿泊施設です。この施設は大変「狭く」規模の小さな施設です。しかしこの「狭さ」だからこそその良さがあります。この「狭さ」だからこそ、そこに宿泊した人々がコミュニケーションを取り合うことができるのです。28年の中で、利用者だった子どもが親の世代になり、親から子へと施設が利用されるようになり、施設利用者どうしの交流も続いています。

「幼少年期青年期に自然の中で宿泊を伴う体験をさせることが、子どもたちの健全な育成には必要」という説もあります。次世代を担う子どもたちが幸せな人生を歩むためにも、この青少年の村の存続が必要です。

私たちは9月の「観音崎青少年の村存続の危機」という新聞報道に驚き、何とか存続の方向を見いだそうと11月3日、500名を超える利用者・地域の方たちが集まり、「焚き火の村祭」を開催することができました。さらに、想いを一つに結集するために、その場で「観音崎青少年の村」の存続に関する署名を提起しました。

「観音崎青少年の村」は、このようなかけがえのない横須賀の財産です。多くの人が集まるコミュニティ広場として、市民と協力の上で存続するよう下記の通り要望します。

記

1. 横須賀市は「観音崎青少年の村」を存続にむけた措置をとること
2. そのために、横須賀市は神奈川県との交渉をすすめること